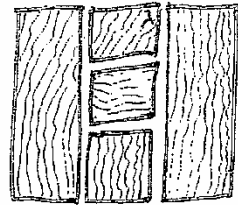


緑のまちあれこれ

- 今年の桜はあわてんぼう、急ぎすぎの桜だった。寒い日が続いて暖かくなったと思うと咲き始め、強い風が吹いて満開の時期が過ぎ、もう散り始めている。上野も飛鳥山も里見公園も真間川堤も、夜桜見物には懐炉を持って一枚余分に着込んで風邪を引かないようにという始末。いまは伐られてしまっただけで跡形もないが、戦前には柴又あたりの江戸川堤が桜の名所だったこともある。春のうららの江戸川堤だった。
- 3月30日、例年の堀之内貝塚体験フェスティバルが開催された。曇り空の寒い1日だったが、昼過ぎまではなんとかお天気も持ち、春休みのことでもあり子ども連れの大勢の人出で賑わった。縄文鍋は、今年は猪肉(群馬県岩宿産)。アサリ汁も好評だった。法人会の焼きそばや堀之内老人会の餅、ガールスカウト、韓国衣装の着付けコーナー、県文化財センターの道免き谷津出土遺物展示、フリーマーケットなど。駐車場の桜はまさに満開だった。
- 最近、風呂というか温泉というか、浴場の建設が目立つ。矢切駅前に大型浴場が出来たかと思えば、堀之内に岩盤風呂をうたい文句にする温泉が開業し、ひところ盛んに宣伝していた松戸和名ヶ谷のラドン温泉やベルクスの先のスポーツクラブの浴場と、どこがどう違うのかわからないくらいの浴場ラッシュだ。そういえばもういまでは大昔の話だが、船橋ヘルスセンターが出来たころには、子供を連れて1日遊んで食べてのんびり過ごしたものだった。
- 北国分の町には信号機がない。北国分駅が出来て、堀之内には写真屋や、ベルクスや中華料理屋やコンビニが開店し、車の動きも多くなって信号機がつけられた。県道市川松戸線のバス通りは松戸市で、商店街も連なり、もちろん信号があった。矢切と堀之内に挟まれた北国分は、もともと上り下りの坂のある住宅地と畑で、信号機が一つもない。外環道が通っても高速道だから北国分には信号機はできない。いつまでたっても北国分は信号機のない町なのだ。



■編集後記■

春四月。小塚山の下、道免き谷津の桜は例年通り満開の花をみせてくれましたが、外環の小塚山トンネル工事の大型トラックが行き交い、心なしか、さびしげな表情をみせています。今年もまた森の音楽会の季節になり、今号はその特集となりました。今年で15回目になります。お天気がよいうように願っています。

緑のまち

—北国分だより—

第85号 2008.4.15 発行



編集 北国分外環対策協議会
市川市北国分 3-7-5 三好方
Tel: 047-872-7898

第15回 森の音楽会

2008年5月18日(日) 午後6時30分~3時

小塚山市民の森 あずまや付近(雨天の場合は小塚山研修所)

第15回 森の音楽会

みどりが微笑む ハーモニ

小鳥とフルート・オカリナ・ピアノ・尺八の競演

フルート・オカリナ
SHINOHARA RIE 篠原 梨恵

市川市出身・在住。東邦音楽大学首席卒業。
東京文化会館での読売新人演奏会出演。
東邦音楽大学研究員、弥栄東高校非常勤講師。
銀座音楽ビヤブラザライオンにレギュラー出演中。



ピアノ
KONDOU NOBUKI 近藤 信貴

武蔵野音楽大学卒業。
ミネンス(特修科)、武蔵野音楽大学大学院修了。
声楽や器楽の伴奏、アンサンブルなどで活躍。
ピアノ講師として後進の指導も行う。



スペシャル・ゲスト 尺八
YOSHIDA NAGAO 吉田 長生

東京藝術大学音楽学部邦楽科別科卒業。
NHK邦楽技能者育成会51期卒業。
文化庁新進芸術家国内研修制度修了。
大使館等で演奏。社団法人日本三曲協会会員。



曲目

ハンガリー・田園幻想曲(トッブラー)
みかんの花の咲く丘
真虚霊(琴古流尺八本曲)
ほか

オープニング

アンクルンの会
緑のまち合唱団

第15回 森の音楽会

実行委員長 星野 亘 良

春とともに森の音楽会が近づいてきました。初回からの実行委員長である三宅佳子さんが昨年5月逝去され、今年も緑のまち合唱団の指揮者である私が実行委員長を引き受けました。今年5月18日（開演12時30分）、今年もエゴの白い花の下での音楽会となるでしょう。

森の音楽会の魅力はなんといってもそのロケーションです。新緑のなかでの音楽会、風の音や鳥のさえずり、それは音楽を引き立たせてくれます。森の中で聴く音楽、それはまさに「音学」や「音が苦」でなく、「音楽」です。今年も楽しいひと時になるでしょう。

第15回の今年、市川交響楽団員の篠原梨恵さんのフルート（オカリナも）を中心に尺八（吉田長生さん）とピアノ（近藤信貴さん）のセッションです。昨年のオカリナもそうですが、森と笛の音はよくマッチします。人の息が音になってゆく楽器特有のやさしさは、きっとみんなの心に沁み込んでいくはずです。

北部市川のシンボルともいえる小塚山公園、住民や環境を無視した外環道路建設工事で痛めつけられているとはいえ、その豊かな新緑は今年も森の音楽会とみんなを歓迎してくれるはず。勿論、緑のまち合唱団とアンクルンの会もオープニングで参加します。

森の音楽会

第1回から第15回まで



雨天

1	1992年4月12日	オカリナ	(ギター)
2	1994年5月10日	オカリナ	(ギター)
3	1995年5月21日	和太鼓	
4	1997年5月18日	シタール	
5	1998年5月31日	アルパ	
6	1999年5月23日	アルパ	
7	2000年5月28日	チェロとフルート	(ピアノ)
8	2001年5月20日	フルート	(ピアノ)
9	2002年5月26日	ウイグル族の音楽と踊り	
10	2003年5月23日	オカリナ	(ボーカル)
11	2004年5月30日	二胡	(楊琴)
12	2005年6月5日	ホルン	
13	2006年5月14日	アルゼンチンタンゴ	バンドネオン (ピアノ・ボーカル)
14	2007年5月31日	リコーダーとオカリナ	(ギター)
15	2008年5月18日	フルート	(ピアノ)

15回目を迎える森の音楽会

萩原 法子

外環道路が小塚山を通るという話にびっくりし、貴重な森を守らねばと、北国分外環対策協議会のメンバーとの話し合いの中で、音楽会をしましょうと提案し、1992年4月に初めて森の音楽会を開きました。

ある日、東京駅の一角でオカリナを吹いている若者に出会いました。その爽やかな音色を森の中で聞けたらどんなに素敵だろうかと思い、小塚山での演奏を打診してみました。奏者の佐山二三夫さんは音楽会の意図を十分理解され、快諾してくださったのです。五里霧中で始められた音楽会でしたので、すべて手探りでしたが、緑に囲まれての音楽会は予想以上に感動に包まれ、胸が震える思いで司会したのを思い出します。

木々に囲まれた野外での音楽会は、当日の天気のことなど、さまざまな心配もありましたが、毎年5月、地域の催し物として定着し、300人もの方々が楽しんで下さっています。“森の音楽会実行委員長”として尽力された三宅佳子さん、森の掃除や舞台づくりなど頑張られた小沢剛さんは亡くなりましたが、星野亘良さんが合唱団の指揮者として、また実行委員長としてつづけられてきました。

小塚山を守りたいとの熱い想いは、市政に反映されず空しさがありますが、外環道路建設に歯止めをかけようとした市民活動の歴史は消えることはないでしょう。間もなく15回目の森の音楽会を迎えます。

外環国道部 部分開通

“中矢切”で県道市川松戸線に接続

3月22日、外環の国道部2車線が“中矢切”で県道市川松戸線に接続されました。国土交通省首都国道事務所は、当初外環の千葉県区間は全線完成までは部分開通はしないと伝えていたが、2005年住民に説明がないまま突然方針を転換しました。

外環のような大型道路を全線開通前に県道のような一般道路に流せば、周辺道路に混乱が生じます。この開通によって、中矢切の“外環と県道との交差点”に車が集中し、県道の渋滞は常態化しています。そのため生活道路への進入車も増え、環境は悪化するのみです。

県道市川松戸線の交通量は、これまで1日17000とされてきましたが、部分開通により1日1000増えると事業者側は事前に説明していました。この県道沿線は住宅地としては

4 市内で最も排ガスによる二酸化窒素濃度が高く、住民は日常的に環境基準を超えた大気汚染や騒音・振動等に苦しめられています。

県道に責任を負う千葉県や市民の健康・安全を守るべき市川市・松戸市は、部分開通によって更に健康被害を受ける沿線住民の痛みをどう受け止めているのでしょうか。市議会での論議が必要だと思われます。

北国分の道 市川の道 (1)

西畑 健一

北国分のメインストリートといえば、20年くらい前までは、市川から松戸行きのバスで下矢切下車、日石のガソリンスタンドを右折して、突き当りの三浦医院を右に、そしてすぐ左に曲がれば、暗い森の道を抜けてウシガエルが鳴いている沼があり、どうめき谷津を過ぎてやっと3丁目、三浦医院を左に曲がれば、2丁目の永幸マーケットを経て4丁目に至る道だった。今では中心が北総線北国分駅付近に移って、スーパーやコンビニ、中華料理店、ファミレス、大型カメラ店、ドラッグストア、書店も郵便局も駅前周辺に出来て、堀之内から北国分3丁目への道が賑わい、かつての酒屋や肉屋や魚屋、八百屋や床屋や文房具屋があった下矢切の商店街は閑古鳥が鳴いている。

*

国府台の国立病院からじゅんさい池に降り、さらに坂を上って中国分の自動車学校、中国分小学校を経てどうめき谷津へ下りる道は昔からの道である。どうめき谷津には、今は平坦になっているが、堀之内貝塚のある博物館の台地(松林)がバス通りまで続いていた。じゅんさい池からいざなぎ神社方面に行くには、小塚山くらいの山道を越えることになる。その山道の峠の辺りに駒形墓地という墓地があった。今の墓地は山の上からそのままの位置に下ろされた場所にある。駒形墓地と権現原の間の、博物館の駐車場の前の道は、千艘ヶ谷津(せんぞうがやつ)と呼ばれた小道になっていて、数軒のほとんどの家は、山からの湧き水で出荷する野菜などを洗っている農家だった。

バス通りまでの丘陵は、昭和45年頃だったと思う、土取り業者の手で半年くらいの間に松の立木が伐採され、ブルドーザーが入って、あっという間に現在のような平坦な土地に変わってしまった。余談ではあるが、この山土は、幕張メッセなど湾岸地帯の埋立てに、いい値で売れたと聞いたことがある。(つづく)

土地収用法に反対を

千葉県知事に要請

2008年1月25日、国土交通省首都国道事務所と東日本高速道路株式会社千葉工事事務所は、行き詰っている外環道路の用地取得の状況を打開するためとして、土地収用法に基づく事業認定を申請する準備にはいると発表しました。

今なお265件もの住民が用地取得に応じていないのは、外環道路が、住み慣れた土地や住居を奪うだけでなく、市川市、松戸市の街を分断し、重大な環境破壊をもたらすからです。

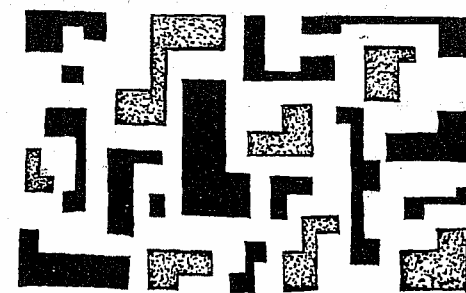
2月22日、外環道の地権者や住民の20名が県庁で堂本知事に面会し、国などが土地収用法で強制収用することを検討していることについて、県として反対するよう要請しました。

この交渉で特に問題としたことは、事業者側が1995年に行った「環境影響評価」です。これに対し専門家で構成される「千葉県環境影響評価審査会」は、影響予測の不備や問題点を数多く指摘しました。しかし事業者側はこれらの対応を先送りし、「環境は守れる」として事業が進められているのです。

そのため住民は「千葉県公害審査会」に調停を申請し、事業者側に問題点についての対応を求めている最中です(昨年7月より4回の調停が行われています)。事業者側は調停の場で誠意ある対応をすべきであり、土地収用法の手続きに入るのは暴挙です。

知事は住民の要請に対し、「勉強して判断したい」と答えましたが、知事には「環境影響評価審査会」からの指摘を確実に事業者に実施させる責任があります。外環問題の解決にはまず「環境影響評価」の不備を正すことであると認識され、その見直しに向け指導的役割を果たされるよう求めます。

第5回公害調停は、5月8日(木)に予定されています。



小塚山の環境は いま

石居 隆行

北総線交差部工事も、連日重機による掘削作業が進み、地形も劇的に変化しつつあります。今年の春一番は、小塚山樹木の減少およびこれら地形の変化等の相乗効果により、私が小塚山に住んでから最も激しいものでした。それだけ小塚山の緑に守られていたわけです。“道免き谷津”では、小さな竜巻が起き、土埃が舞い上がり、歩くことは非常に危険でした。梨畑などの樹木がなくなってしまったことも少なからず影響を与えているのではないのでしょうか。

昨年大きく変化した自然現象がもう一点あります。蚊の大量発生です。小塚山トンネル工事の調整池ができてからです。家に蚊が居なかったのは、12月から2月の3ヶ月くらいでしょうか。もう既に今年は蚊が発生しております。昨年の北総線工事説明会資料によれば、交差部トンネル工事の南側に大きな調整池が出来る予定になっています。温暖化も進み、一年中蚊に悩まされるのも時間の問題です。愛する北国分の環境を満喫できるのも残り少ないのかも知れません。

早春の花 オオイヌノフグリ

谷口 浩之

弥生3月に入り日差しは明るく強くなってきました。足許では2月にはまばらだったオオイヌノフグリが、どうでしょうお日様に向かって小さな花を精一杯広げ、気持ちよさそうに小群落をつくっています。実の形から付けられたという変わった名に似合わず、瑠璃色をした花は、いち早く春を告げる野の花です。

オオ(きい)と付くからには、もとがあります。イヌノフグリです。前者のヨーロッパ原産の帰化植物に対し、在来種です。市立自然博のホームページに、絶滅危惧種で市内一箇所有成地有り、としています。その場所は保護のため発表されていません。

前者に対して小さく3mm程度の淡い紅色の花で、数年前にはタチイヌノフグリと一緒に見られたのですが、残念なことに今では地面にはいつくばって目を凝らしているのですが、見当たりません。種子がどこかに運ばれていることを願わずにいられません。

これからの季節、人間と同じように春を待っていたシュンラン、スマレ、アマナ、ツクシ、キンラン、ギンランなどが足許を飾ります。わが「緑のまち」を歩く楽しみが増えます。外環道よ、野の花を踏まないで。

探鳥会

月 日：平成20年2月17日(日)

天候 晴

参加者： 天野 石居 石居 今井 宇沢 小栗山 小沢 越田 新倉 新倉
鈴木 鈴木 田里 谷口 谷口 三好 村岡 17人

確認された鳥：

カワウ カルガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ
ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ユリカモメ
キジバト コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
シロハラ ツグミ キクイタダキ エナガ、シジュウカラ
メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス 計27種

コメント：

時折冷たい北風が吹きましたが、よく晴れてバードウォッチング日和でした。小塚山では、エナガ メジロ シジュウカラの群にキクイタダキも混じっていました。じゅんさい池のトモエガモはオスとメスが並んでいました。参加者みな楽しいときを過ごしました。(村岡幸生)

次回は 4月29日(祝) 集合 小塚山あずまや AM10:00
(雨天中止)

バードウォッチングに参加して

小塚山～じゅんさい池

小沢 富子

雑木林に青く澄んだ空の下、初めてバードウォッチングに参加させていただきました。私は身近な鳥といえばスズメ、ウグイス、ハト、メジロ、カラスくらいしか知りませんでしたが、27種類もの鳥がいるのを見て私達をとりまく環境を大切にしないと切実に思いました。自然破壊によって小さな鳥たちは人間以上に生きるのが大変なことも知りました。

帰り道、鳥の形をした雲がきれいに見えて、私の忘れられない1日になりました。ありがとうございました。